

2017年10月25日

## 平成29年度第2回 海岸工学委員会議事録

開催日時：平成29年10月25日（木）18:00～20:00

開催場所：TKP 札幌駅カンファレンスセンター(2A)

出席者：佐藤相談役，柴山相談役，岡安委員長，後藤副委員長，田島幹事長，荒木，川崎，重松，高橋，武若，森，渡部，柿沼の各小委員長，越村，小竹の各副小委員長，竹下(天野代理)，入江，岩前，大村，岡田，小野，桐，津田，松本，宮武，横木の各委員，有川，太田，小笠原，片山，加藤，北野，佐々木，瀬戸口，高川，中嶋，坪野(松山代理)，山城の各委員兼幹事

議事録：瀬戸口・田島

資料：

- ・ 平成29年度第2回海岸工学委員会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint資料（資料2）

審議報告事項：

### 1. 議事前報告および議事録の確認

- WEB公開済の前回委員会の議事録を確認した。
- 村岡委員が加藤雅啓委員に交代したことを確認した。

### 2. 海岸工学論文集第64巻発刊準備状況について（森編集小委員長）

登録論文数：362編

第1段審査通過論文数：287編（+企画セッション（要旨審査のみ）2編）

第2段審査通過論文数：283編（不採択1編，辞退3編）

第2段審査以降論文数：281編（不採択1編，辞退1編）

※海岸工学講演会での講演数：286（281+2（企画論文無）+3（通常号））

- 第2段審査時に辞退論文数3編→辞退理由はデータや考察が十分でない。
- 第一段審査通過後の辞退はあってはならないことであることを改めて確認した。ただし，第2段審査以降の辞退1編については査読意見に対して対応できなかったものであり，辞退理由として認められることも確認。
- J-STAGE アップロード時に凶化けた論文が一編あった。今後の確認作業の方法については編集小委員会で検討する。
- 題目・著者変更については受けつかないが所属の変更は認める(例年通り)。
- 著者による査読に対する報告書のテンプレートを作成し，効率が上がった。
- 二重投稿に該当する論文はなかったが，該当基準の明確化は次年度の課題。
- 編集委員数を23名から29名に増やしたことにより，査読の負担を軽減した。
- 本年度はスケジュールがタイトであった(札幌開催が早かったため)。組版の廃止により短縮される投稿から査読，出版までのスケジュールについては今後も論文編集小委員会で検討する。
- 原田副小委員長は今回で退任→山城委員兼幹事が副小委員長に。
- 昨年度の開催予算の結果，例年より収支で大きく黒字(会場費，紙印刷の廃止等)となった。
- 著者負担金は3.5万円とする。
- プログラムに掲載する広告費や会場展示費は委員会の予算にとっても重要。

3. 海岸工学論文賞および同論文奨励賞の候補論文について（田島幹事長）

- 論文賞は査読得点から 72 点以上を最初抽出（9 編）
- 奨励賞は査読得点から 71 点以上を最初抽出（5 編）
- 査読得点，推薦等から総合的に判断し，論文賞と奨励賞を各 3 編選出し承認された。受賞論文は以下の通り。

■海岸工学論文賞

論文番号：16

題目：エアチューブ周りの流れの不安定

著者：渡部靖憲・鈴木敦貴

論文番号：209

題目：水中設置型分光光度計による無機態窒素・リンの現地観測

著者：入江政安・林政宏・岡田輝久・山野 貴司・藤原 隆一

論文番号：271

題目：海岸線モニタリングにおける合成開口レーダの適用性の分析

著者：赤松空之・田島芳満・佐藤慎司・下園 武範

■海岸工学論文奨励賞

論文番号：77

題目：黒潮周辺海域における海洋変動に対する一次生産応答の季節変動特性について  
筆頭著者：鈴江洋太（共著：内山雄介・山崎秀勝）

論文番号：187

題目：Dean Number を適用した移動床造波水路実験における地盤内水圧応答

筆頭著者：松田達也（共著：三浦均也・佐藤隼可・諫山恭平・澤田弥生）

論文番号：274

題目：UAV による漂砂系スケールの海岸底質粒径マッピング

筆頭著者：五嶋このみ（共著：佐藤慎司）

4. 企画 session について（加藤委員兼幹事，高橋委員）

- テーマ：流砂系の総合的な土砂管理と海岸保全
- 話題提供と総合討論の 2 部制。
- 次年度は津波防災研究ポータルサイトの公開とその活用

5. 討議集について（川崎小委員長）

- 昨年度までは 2 度の回収作業が生じていた。
- 今年度からは著者に直接メールにて質問し，著者から直接回答する。その後討議集担当者に報告
- 次年度以降の討議集の方針については広報・出版小委員会で議論し次回の幹事会・委員会にて提案する。

6. 第 64 回海岸工学講演会の開催状況について（渡部委員兼幹事）

・特別講演会について（田島幹事長）

日時：2017 年 10 月 24 日（火）17:15～18:00

場所：北海道大学フロンティア応用科学研究棟 2F 鈴木章ホール（札幌市北 15 条西 8 丁目）

講演題目：Wave-Current-Sediment Interaction: The WCS Facility, Its Performance, and Some Results（大型振動流装置を用いた底質移動特性に関する研究）

講演者：Ole Secher Madsen（マサチューセッツ工科大学 名誉教授）

参加者数：96 名

・前日シンポジウムについて（岡安委員長）

日時：2017年10月24日（火）18:00～20:00

場所：北海道大学フロンティア応用科学研究棟2F 鈴木章ホール（札幌市北15条西8丁目）

テーマ：陸からみた津波減災施設ー減災アセスメント小委員会中間報告ー

参加者数：111名

➤ 懇親会の参加者数は例年レベル。

7. 第65・66回海岸工学講演会の開催（会場など）について（太田委員兼幹事・柿沼委員兼幹事）

➤ 第65回（鳥取）：会場は全館禁煙。前日シンポジウムは第1会議室（200名程度）。見学会は鳥取砂丘・浦富海岸（サンドリサイクル）。助成金については経費の総額が交付金額の上限（懇親会費、見学会のバス代の負担もあり）

➤ 第66回（鹿児島）：浅野先生が顧問。日程は10/23～10/25。会場はかごしま県民交流センター。懇親会は鹿児島サンロイヤルホテルの予定。見学会はマリポートかごしま臨港道路建設現場・指宿の侵食対策工事現場。第1会場は500席程度（前日シンポと第1日目まで2日目以降は200名程度のホールに変更）。助成金あり。

8. 第53・54回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（荒木委員兼幹事、太田委員兼幹事）

➤ 第53回：A・B共通の講義を設定した（おおむね好評）。参加者の多くは民間会社。講義スライドの配布について利用したいとの意見があった。次回以降として高潮について関心がある。2日目の終了時間を早めにしてほしい。

➤ 第54回：会場は山口県。主担当は水工学委員会。海岸工学委員会からは愛媛大学の日向先生が担当。

9. Coastal Engineering Journal について（渡部 CEJ 小委員長）

➤ Impact Factor 2016：0.887（昨年 0.703 から 26%上昇）

➤ 現在、Special Issue on "SPH for Coastal and Ocean Engineering"を募集中。

➤ Special Issue on "Climate Impact on Coastal Engineering"には7編が採択された。

➤ 今年の投稿数が例年より減っている。

➤ T&Fとの契約について、バックナンバー等について WSPC と交渉中。WSPC が新しいジャーナルを立ち上げたという告知が出ている等、各種問題あり。弁護士を通して対応中。T&Fは準備（バックナンバー、HPの整備）を進めている。

➤ 大学図書館等で契約しているところに契約が変更されていることを通知。

➤ WSPC との契約は 2018 年 2 月まで。出版は 2017 年 12 月が最後。2018 年 3 月に T&F からの最初の巻が出版される予定。

10. 研究小委員会の活動について

■広報出版小委員会

➤ Web 情報の充実。ロゴを作ってみては…。

➤ アウトリーチの充実

➤ 継続教育受講機会の拡大：E ラーニングの試行的実施。

➤ 討議集については廃止も視野に検討中（JSTAGE を活用してはどうか）。

■沿岸域

➤ 環境問題のその後として変遷を整理。

➤ 環境要因と研究アプローチについて整理。

➤ 2 回の活動を実施。

➤ 旅費を支出することで参加者が充実。

■津波

➤ WG を中心に活動

- 重要論文のリスト作成.
- ポータルサイト案の作成 (5/1 までに公開予定で現在試行して精査中).
- 来年度の企画セッションで報告予定.

#### ■波動モデル

- 数学, 応用物理系の研究者と連携.
- 九州大学応用力学研究所共同研究集会 (12/16・12/17 開催)
- 図書出版の企画検討中.

#### ■減災アセス

- 委員会と現地視察 (徳島県阿南市) を実施.
- 中間報告書を作成中 (次回幹事会までに).
- 3年後までにガイドラインを作成することを目標.

#### ■地域研究

- 各 WG で活動中.

#### ■地盤材料

- 水理学と地盤工学の情報整理.
- 土木学会全国大会で研究討論会を開催.
- 3つの WG で活動中 (研究成果のレビュー, 事象の明確化, 実験)

#### ■気候変動

- 6月から設置.
- 委員を応募し, これから活動.

### 11. その他

#### ■カリブ海でのハリケーン (Irma, Maria) 被害調査に海岸工学委員会から派遣

- 団員は以下の通り: 森(団長), 下園(幹事), 有川, 稲津, 志村.
- 調査対象はアメリカ領ヴァージン諸島.
- アメリカ(NSF)との共同調査.
- 11/8 日本初~11/15 現地発.
- 被災状況・遡上高を調査.
- アメリカと合同報告書を作成.
- ICCE 2018 における special session の開催も検討中.
- 調査メンバー数名の旅費を海岸工学委員会でサポートする. (報告会を実施予定)

#### ■平成 29 年度の予算について (3 月末までに)

- 例年より大幅な黒字が出たため有効活用案を委員会幹事会メンバーから募集した結果, 以下の 5 つの提案があった.
  - ① 災害調査
  - ② 査読システムの改良
  - ③ 「日本の海岸とみなと」の電子化
  - ④ 地域活性化小委員会のシンポジウム会場費 (海岸工学委員会の主催で)
  - ⑤ 各小委員会の旅費負担
- ①②④は確定. ③は広報出版小委員会で精査しその状況次第 (公開・販売等については著作権等があるので要検討. 電子化は有意義).
- ⑤については年内の①~④の見込みやそのほかの今年度の予算執行状況を確認し年内を目途に決定する.

#### ■土木学会のペーパーレス化推進について

- 土木学会からの要請あり，小委員会等で土木学会を通じて資料の印刷などをする場合には，できる限り印刷物を減らすこと。

#### ■APAC 2017 について

- アブストラクト通過 175，フルペーパー84.
- アブストラクトの採択通知から full paper の投稿案内までに時間が開きすぎてしまい，投稿者数を大きく減らしてしまった。
- 次回は 2019 年ベトナム・ハノイで開催。2017 年のように投稿者数を減らしてしまうことが無いように，Council，ISC メンバーから働きかける。

#### ■CECAR8 について

- 2019 年の 4/16～4/19 に開催。

#### ■ICCE2018 について

- 7/30～8/3 に米国ボルチモアにて開催。投稿数が減っている(特に欧州から 4 割減。日本から 1 割減)。

#### ■土木学会論文集(通常号)および JJSCE について

- 土木学会論文集編集委員長の佐藤相談役から話題提供があり，今後の通常号，特集号，JJSCE のあり方について議論した。
- JJSCE について，B2,B3 部門は CEJ があるため，現在の JJSCE は廃止し，B2/B3 部門の英文雑誌は CEJ であることを再確認する(土木学会全体から見ると CEJ の認知度は低い)
- CEJ の現状については土木学会論文編集調整会議でも報告してもらう。
- 他分野の JJSCE も SCI 論文になるよう働きかけるべき。(CEJ はその成功例になる?)
- 土木学会論文集(通常号)への投稿数も少ない。通常号と特集号のシームレス化あるいは更なる差別化を含め，そのあり方を検討すべきである。
- 特集号への論文投稿が，特に若手研究者の英文ジャーナル投稿の足かせとなっている可能性を危惧。海岸工学講演会ではアブストラクトのみの査読で，特集号へのフル論文を投稿しなくても発表できるオプションを検討しても良いのでは？
- 英文ジャーナルへの投稿の代わりに，Translated Journal へ最終的に投稿するという方法もあり得るのでは？(SCI 論文として成り立つのか?)

→以上の議論を踏まえ，通常号および特集号の今後の在り方についてさらに検討を進める。